

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第9回 廃棄体放射能評価分科会 (F10SC) 議事録

1. 日時 2006年10月2日 (月) 13時30分～15時30分
2. 場所 (社)日本原子力学会 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)  
(出席委員) 川上 (主査), 松村 (副主査), 市川, 坂下, 竹下, 田中, 古谷, 本山,  
森本, 山崎 (10名)  
(代理出席委員) 金子 (傳田幹事代理), 中西 (西谷委員代理) (2名)  
(欠席委員) 樋口 (1名)  
(常時参加者) 尾崎 (1名)  
(発言希望者) 阿部 (1名)  
(傍聴者) 榊原 (1名)  
(事務局) 厚
4. 配布資料  
F10SC9-1 第8回廃棄体放射能評価分科会議事録 (案)  
F10SC9-2 標準委員会の活動概況  
F10SC9-3 「放射性廃棄物の放射能濃度決定方法—原子力発電所から発生する浅地中  
ピット処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法に関する基本手順:2006 (案)」  
に対するコメントについて (改定3)  
F10SC9-4 放射性廃棄物の放射能濃度決定方法—原子力発電所から発生する浅地中ピ  
ット処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法に関する基本手順:2006 (案) (改  
定4)  
F10SC9-5 標準「放射性廃棄物の放射能濃度決定方法 (仮称)」中間報告 (案)

## 5. 議事

### (1) 出席委員の確認

事務局から、代理出席を含め12名の委員の出席があり、決議に必要な委員数（9名以上）を満足している旨の報告があった。また、阿部 昌義 氏（標準担当委員／(財)放射線計測協会）より発言希望者として、榊原 哲朗 氏（日本原子力研究開発機構）より傍聴者としての届出が事務局を通じて主査に出されており、主査がこれを了承している旨、紹介された。

### (2) 前回議事録の確認（F10SC9-1）

事務局より、下記の誤記を変更する旨説明があり、前回議事録は承認された。

- 「(5) GCR から発生する低レベル放射性廃棄物の放射能濃度決定方法について」  
→ 「(5) 標準原案の検討について」

### (3) 標準委員会の活動概況

事務局より、F10SC9-2に沿って標準委員会の活動概況が説明された。

### (4) 人事について

事務局より、本日の分科会を持って傳田委員（東京電力（株））及び西谷委員（関西電力（株））の退任届けが主査に出されていることが報告された。

山崎委員より、金子 悟 氏（東京電力（株））及び中西 誠一郎 氏（関西電力（株））の委員候補推薦があった。

決議の結果、両名は委員として選任された。

また、主査と副主査の協議の結果、専門部会での委員承認を条件に金子委員を幹事に指名することが報告された。

### (5) 標準原案の検討について

前回分科会で提示したドラフト（F10SC8-4）に対するその後の各委員からのコメント及び幹事会内での精査から発生した修正案について、F10SC9-3の資料に基づき説明があった。なお、以下のような補足があった。

- 事務局で精査した際、誤字・文章の書き方等の修正箇所があったが、これについては、技術的な内容が含まれないので、特に記載していない。
- 接水面積の設定値について、一部、わずかな修正が発生しているが、評価結果に影響をしない程度のものである。

提案された修正案の中で、標準本文の6.2影響因子を確認する方法に関して、「影響因子の三要素にて継続性が確認できる核種についてのみ、本方法が適用できるということを明確に示す」という趣旨の、より厳密な記載に変える案が示されたが、これに関して

次のような議論があった。

- 修正文案は良く読めば分かるが、分かり難い文章である。確かに、趣旨に従って修正しようとする、分かり易い修正文案が思いつかない。標準本文は誤解をまねかないように可能な限りシンプルな表現が望ましい。
- スケーリングファクタ及び平均放射能濃度とも核種ごとの適用が前提であり、6.1と6.2の方法のいずれを採用するかは、「核種ごと」に判断することというように前文の記載を変更しておけば、6.2は現状の文章のまま、修正案のような厳密な記載に無くても、趣旨としては通じると考える。また、このように記載されていないと、全核種一律に6.1又は6.2のいずれかの方法を採用しないといけないというような誤解を生じる可能性もある。
- 修正案のように、より厳密な記載にしておくか、又は、標準は定期的に更新されるので、何か新たな知見が出た場合に修正することとして、現状のままとしておくかのいずれかである。標準とは、現状までに明確になっている知見で作成することが原則と考えると、6.2については、現状の文章のままでも良いと考える。

以上のような議論の結果、6.1と6.2の方法のいずれかを採用することについて、6.章の前文に「核種ごと」に判断することを追記することで、6.2は現状の文章のままとする事で全委員の意見が一致した。

また、上記以外のコメント等修正案については、提案された修正案の通りでよいことが了承された。

なお、今回提案したコメント修正案を反映した場合の現状の最新版として、F10SC9-4が紹介された。

#### (6) 今後の予定について

幹事より、F10SC9-5の資料に沿って、本標準の制定に向けた今後のスケジュールについての提案があった。作成された本標準案は、今回の分科会の結果を反映して、第24回原子燃料サイクル専門部会、その結果を受けて次回の標準委員会に中間報告することが了承された。

#### 6. その他

幹事より、本標準については、基本的に技術的な検討は終了したと思われることから、本分科会は今回を持って一時終了することとし、今後の対応・調整等は電子メールによるやり取りを基本とすることとする、但し、本標準の中間報告やその後の対応の結果、必要が生じれば、適宜分科会を開催することとしたい旨の提案があり、了承された。

以 上